

「絶対成績を上げる」を信じている

●よく言われることだが、特定の科目の好き嫌いが、先生の好き嫌いにより影響を受けるようである。あの先生が嫌いだから、その先生が教えている科目が嫌いになるというのである。そんなことでその科目を嫌いにならないでほしいのだが、担当する教師との関わりで、授業に取り組み気分からして変わるのだから仕方ないことかもしれない。

●いわゆる教科の学習だけでなくスポーツでも稽古事でも、何かを教わって習おうというとき、先生と生徒、師匠と弟子、コーチと生徒？いずれにしてもお互いの信頼関係が大切である。信頼関係ができていないと両者の関係は成り立たない。

●誰かが誰かにものを習おうという場合、教師の側は生徒の成長を期待し、願うからこそ伝えていく。また生徒の側は教師の言うことを聞き、身につけることで成長できると思うからこそ、教えを請うわけである。部活でも習い事でもそうだが、教師の言うことが信じられなければ関係は成り立たない。そもそもなぜその場にいるのかということになる。



●塾での学習も同じである。ただ勉強というの

はそんなに楽しいものではない。(楽しい部分もあるのだがなかなかそれには気づきにくいのかな)だから、自分で身につけようとして通っている意識が少ない人もいるかもしれない。やらされている感が強い人も多いかもしれない。それでも、教師と生徒の関係は同じである。

●私たちは生徒を基本的に信頼している。しっかりと取り組み続けていけば、必ずできるようになる。成長していくと信じている。だから毎回の授業で一生涯指導できる。みんなも基本的に教師を信頼してくれていると思う。だから毎回回塾に来て授業を受けてくれていると思う。

●この関係をより強くしていくことがお互いのためであると思う。私たちは君たちを信じ、授業をして、アドバイスをし、課題を出す。みんなは教師の言うことが自分の成長につながる。そして授業を受け、アドバイスを取り入れ、疲れていても頑張って宿題をこなしていく。

●そのようないい関係を築いていきたいものである。特に受験期は大変なことや辛いことも多いと思う。そのような状況でもお互いが信頼し合って、目標に向かって進んでいけたら、きっと受験の体験はみんなに大きな力と経験を与えてくれると思う。

●さて、君は創学舎の授業をどのような気持ちで受けているだろうか。そんなことを考えながら今日も元気に授業に向かう。一緒に頑張っていこう。
(松永)

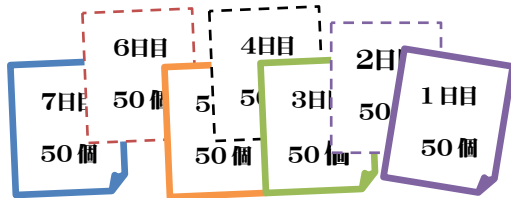
復習の仕方

●一週間後、50個の英単語のテストをします。

一日何個ずつ練習しますか。「こう尋ねると、毎日7個ずつ練習すると答える生徒が結構多い。7個ずつ七日練習し、最後の一日だけ8個にすればちょうど50個、というわけだ。しかし、これでは全くダメ。やってみればわかることだが、今日新しく勉強したことは翌日になると半分は忘れていくものだ。一週間たてば、ほとんど覚えていない。一日7個ずつ練習したのでは、テストの時に覚えているのは、前日に練習したもののくらいである。

●ではどうすればよいか。そう、毎日50個練習するのである。

何度か何度も練習するのである。繰り返す回数が増えるほど、知識の定着はしつかりしたものである。新しいことを学ぶと、脳細胞の間に新しい結び付きが生まれる。一度やっただけでは、この結び付きは弱くすぐに消えてしまう。しかし、繰り返すことで強化され、知識が定着することになる。



●記憶には短期記憶と長期記憶がある。テストの前に一夜漬けをしたら、テスト終了と同時にきれいさっぱり忘れてしまった経験はあるだろう。これが短期記憶である。入試では、余りに覚えるべきことが多いために一夜漬けが通用しない。したがって、長期記憶ができるようにしておかなければいけない。一日で覚えるより、一週間かけて覚えた方が長期間頭に残っているし、一ヶ月かけた方がさらに良い。

●何度も繰り返すのはいいが、気をつけなければならぬことがある。それは、一回目から完

壁に目指してはいけないということだ。一回目がなかなか先に進まないの、本人に尋ねると「気になって先に進めない。とぼすのは性格に合わないんです。」こういう生徒は性格を変えなければ伸びない。一回目は一通りやり、数学の難問や、英語や古文などで解釈できない所はマーカーなどでチェック、二回目、三回目にきちんとできるようにしていけばよい。一通りやることで、解くために必要な知識が頭に入り、一回目には気づかなかったことが、二回目には「ああ、こういうことだったのか」と気づくことも多い。難問を一度で理解しようとするのは無理である。何度も解くうちに解き方が身につけばよい、ぐらいいに考えて頑張ることだ。勉強には、緻密さと、ある種のいい加減さがともに必要となる。くれぐれも使う場所を間違えないように。

●復習が大切であることはわかってくれただろう。ただ、具体的な復習の仕方は、勉強の内容によって少しずつ変わってくる。それは次回以降で述べていきたい。
(大場)

やる気と集中力

●いよいよ夏休み。中三も高三もこの夏に大きな成果をあげないといけない。それぞれに決意はしているはずだが、実は大いに心配でもある。気持ちと行動が一致していない生徒が余りにも多いからだ。

●さて、長年こういう仕事をしていて思うのだが、今まで「やる気のない生徒」は、まず一人もいなかった。それぞれに「やる気」はもっていると思っ

が、生徒の学習状況を大きく左右しているのだ。(勿論、これまでの学習量、家庭環境、現時点での能力など、いろんな要素も影響することは間違いのない。)では、「やる気」はずっとそのままなのか? 「やる気」の差はずっと埋まらないのか? 否である。「やる気」は育つのである。少し勇気を出して。少し工夫をしていけば、少しずつだが強くなっていくのである。そう、きみの「やる気」も、もっと強くなれるのだ。

●では、どうすればいいのか? それは、毎回毎回の勉強を成功させることである。今日一日を、上手く過ごせるようにすることである。その積み重ねが、「やる気」ももっとやろう! と、きみを変えていくのである。更に、では、毎日の勉強を成功させるにはどうすればいいのか? これもまた、いろいろポイントがあるが、今回は、一つだけに絞って、集中力のことを話そう。

●生徒と話をする時、「やろう!」と思うのに、集中できない。「という悩みをよく聞く。学校であったイヤなこと、友人とのめめ事、親との口ゲンカなど、不愉快なことが頭の中を支配している。そうでなくとも勉強を、一時間もすれば疲れて飽きてくる。そんな状態のまま、机に向かっているだけでもダメ。といって、テレビをみたり、音楽をきいたりすれば、もう勉強にはもどれない。そして、一日が終わるとき、後悔をする。こんなところだ。こんなことを繰り返してはいけない。

●実は集中できないときのために、卒業生はこんなことをしていた。部屋中に志望校の写真を貼る。たくさんコピーしておいて、集中できなくなったら貼る。二枚でも三枚でも貼る。毎日貼る。部屋の壁が埋まったとき別人になっ



た。別の生徒は、「行くぞ、明治!」と叫ぶことを習慣化した。何かをやる時、行き詰ったとき必ず叫ぶのだ。また、別の生徒は参考書問題集、テキストの全てに志望校の写真を貼った。その本を開くたびに写真を見るのだ。

●他にも、いくつか、すぐできる方法がある。集中できないと思ったら、即やめて、五分間体を動かすことである。長すぎてはいけない。具体的にいえば、まず有効なのが【五分間手伝い】

前もって親に頼んでおくのである。「勉強できないとき、五分間だけ手伝いをさせてね。」実は、これには、父母の協力が欠かせないので、この項をお読みの方は、是非配慮していただければ幸いである。次に【シャワー】冷水と温水を交互に浴びると、もやもやもふつとぶ。そして、三つ目。【五分間散歩】家の周りを歩くだけでもよい。とにかく、集中できないことはよくある。大事なものは、そのとき気持ちを切り替える方法を持つことだ。がんばろう。(小林(健))



『そうだ、京都に行こう』

●私がこの世で一番好きな場所は京都だと思ふ。二〇〇〇年を超える歴史を持つ古都であり、南北を基盤の目のように区切る路に様々な世界遺産、重要文化財が立ち並ぶ、歴史という【過去】がリアルに体験できる場所、京都。今年修学旅行で訪れた皆さんも多いことだろう。私も



受験生の合格を祈願するため、のんびりとした時間を味わうため、【過去】を身近に感じるため、社会科学(歴史)を教える者として毎年訪れる。鹿苑寺金閣、二条城、知恩院、下賀茂神社、嵐山、天竜寺、

建仁寺、源光庵、大徳寺、平等院、醍醐寺、西本願寺、霊山神社、東寺、延暦寺、壬生寺と... 言い出せば切りがない。(皆さんはこの中で何箇所訪れただろうか?) 方角なんかも周りの景観でわかる。なぜこんなにも京都が好きな場所であるのか。

●好きになったのは幼少の頃からというわけでもなく、大学生になってから。それまで大学受験時に使用していた教科書や資料集の中にある京都の建築物や景観にも全く興味はわかかなかった。ただ大学時代にバスケットボールをしていた私は京都にある同志社大学と京都産業大学と交流試合と練習のために京都へ遠征に行く機会があった。1週間ほどの滞在中で観光する時間があり、そんなとき、偶然にも巡り会う。七月のある夜、祇園祭・宵山。



●祇園祭は平安時代に起こった疫病を鎮めるために祈ったことが起源で、山鉦という御輿を一から造り、披露し、巡行するという三段階のステップを踏む祭りだ。特に御輿が完成した日、巡行する前日の夜(宵山)が一番、京都の街が活気にあふれる夜

だ。私は神社や仏閣よりもこの宵山の夜に心惹かれた。京都を愛する日本人が各地から大勢詰めかけ、祭りを祝い、この世に生きることを【過去】に生きた先祖に感謝し、【今】この京都にこの瞬間を心から楽しむ。私はこの夜を境に京都に一目ぼれをした。(できたら終生の地は京都でと思っている。)

●皆さんも是非、自分の好きな場所を見つけてみませんか。自分が知らない場所に行ってみる。何かを手に入れたとか、自分の利益につながるなんてことを考えずに、ただひたむきに、その場所を好奇心の赴くまま訪れてみる。自分の知らない人、自分の知らない景色、自分が知らない自分と出会う。そしてその場所では大きく深呼吸すると、新たな発見や未知の出来事をライブで感じ、心から【今を生きているって素晴らしいと実感できる】はずだ。

●生徒からこういう質問を受けたことがある。『なんで歴史のことを勉強するのですか。私は過去を振り返らない人間です。歴史の勉強に興味があるのですか。』そうした質問にはいつもこう答えるようにしている。『歴史を学ぶことに意味はないかもしれない。意味はないかもしれないが、君がいるこの街の【過去】はこれから生きる君たちの【未来】のためにあるのだから。』

●もし君たちが向かうべき場所が見つからなかつたら、思い出してください。

『そうだ、京都に行こう。』

(注) 特にとある鉄道会社と私は何の関係ありません。

(松尾)

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶ 転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶ 在籍していた教室までご連絡下さい。